

リスクアペタイト・フレームワーク構築の取り組み

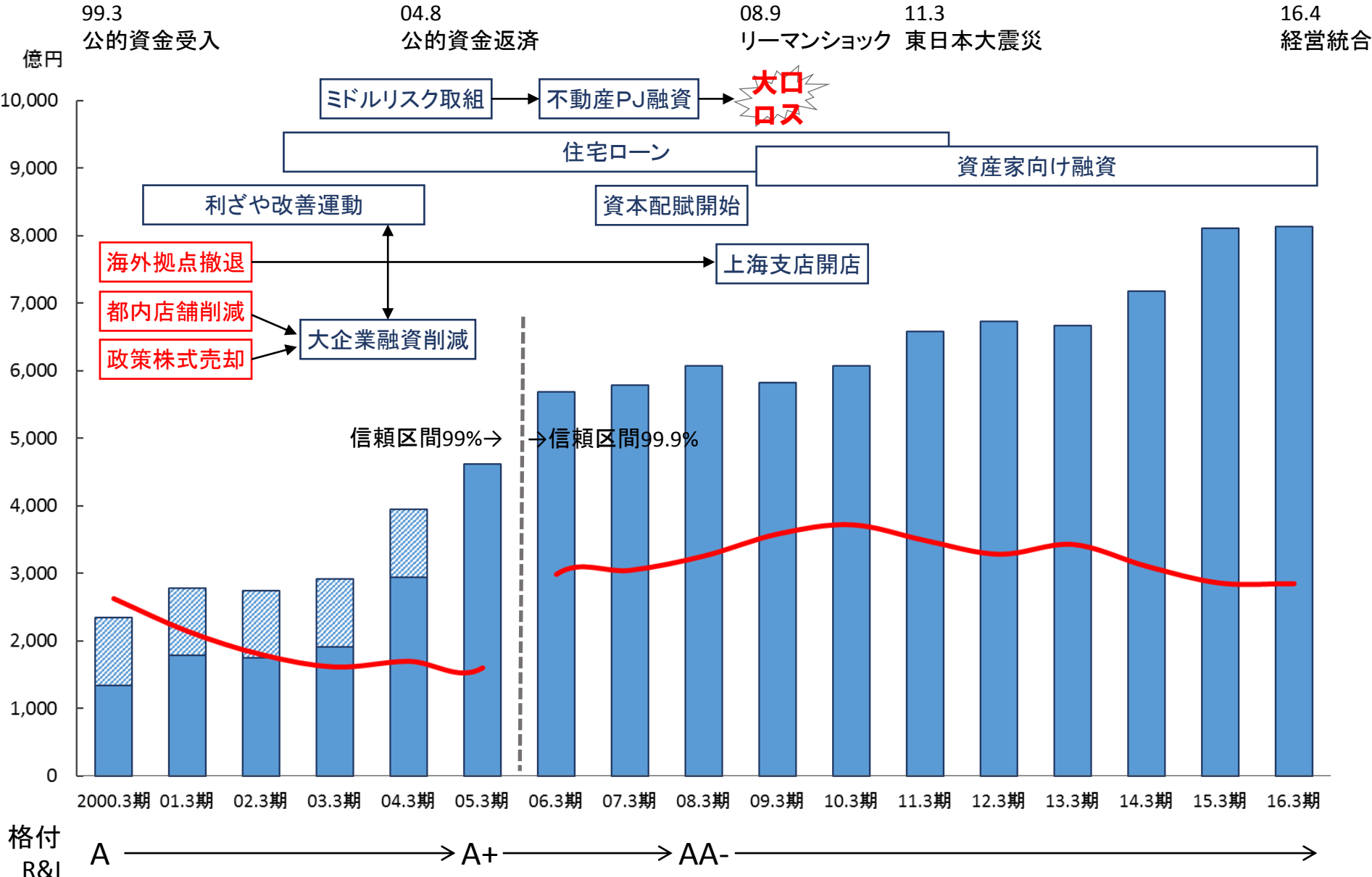
1. 横浜銀行におけるリスク管理の変遷
2. リスクアペタイト・フレームワーク導入の考え方
3. 当社における取組状況
4. 課題

2019年3月13日

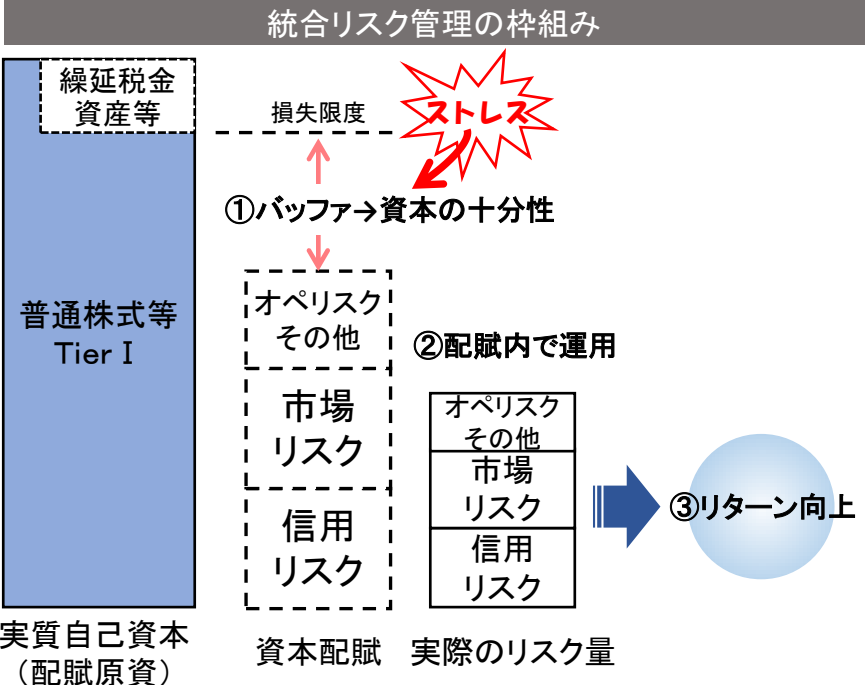
コンコルディア・フィナンシャルグループ
代表取締役社長 川村健一

1. 横浜銀行におけるリスク管理の変遷

■ 実質自己資本 (Tier I - 繰延税金資産等)
■ 優先株 (公的資金)
— リスク量 (VaR) 合計



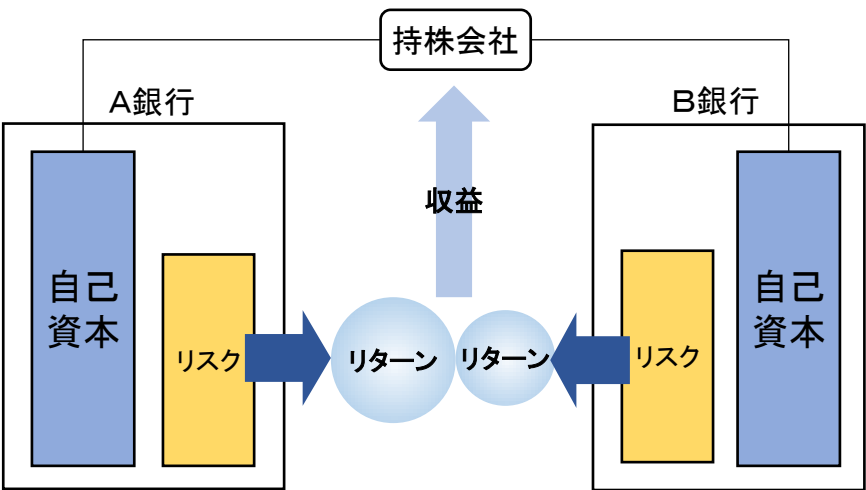
2. リスクアペタイト・フレームワーク導入の考え方



◆統合リスク管理では不十分な点

- 破綻を回避するレベルでのリスクコントロールは実際には現実的でない
- フォワードルッキングなストレステストがリスクテイクに反映されていない
- リスクテイクとリターンが曖昧

持株会社によるリスク管理

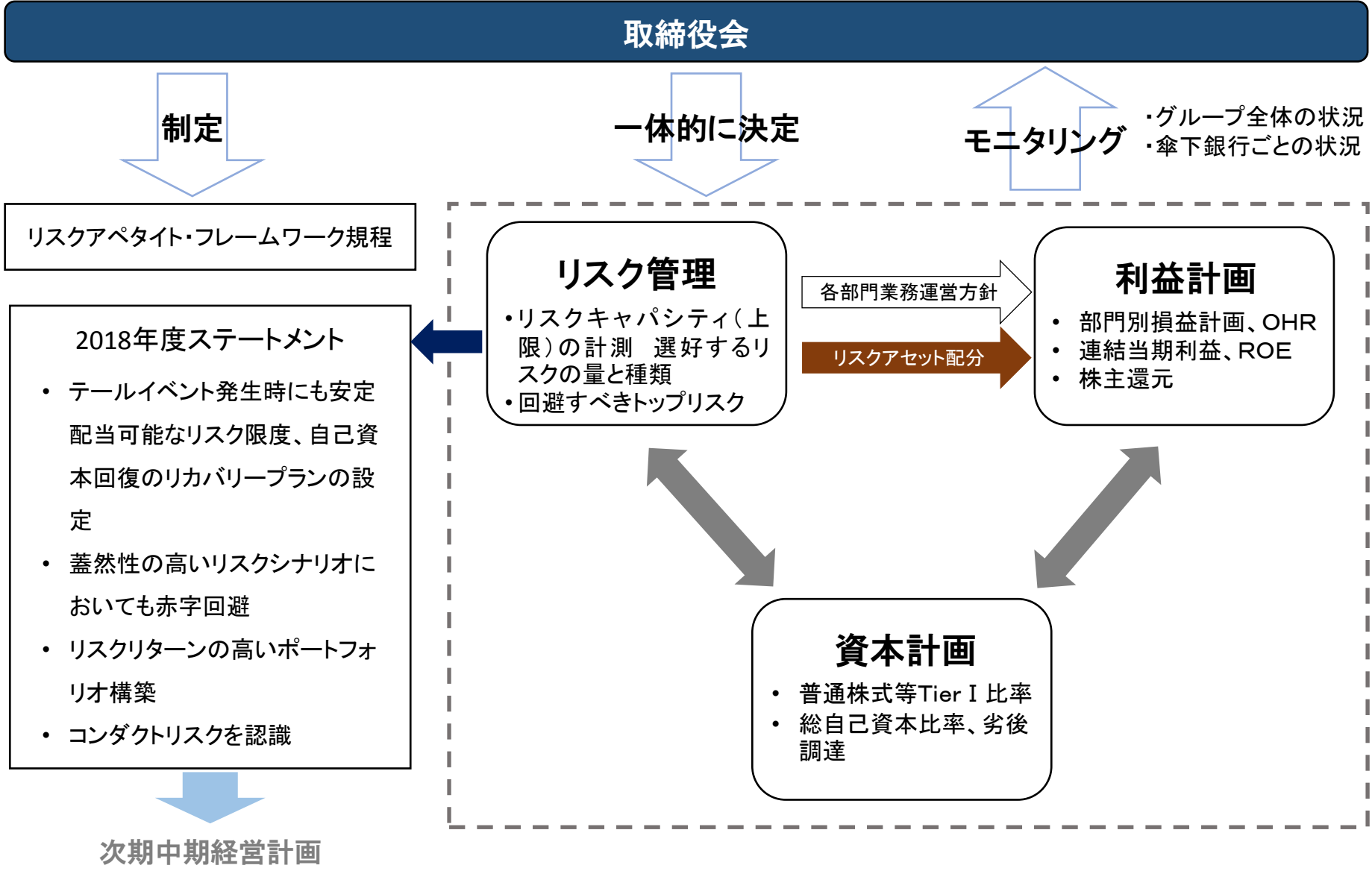


◆経営統合後の持株会社によるリスク管理

- 傘下銀行の事業特性に応じて選好するリスクを特定する
- フォワードルッキングなストレステストに基づき、リスクの総量(上限)を計測する
- リスクとリターンを評価し、グループ全体の収益の極大化をはかる

3. 当社における取組状況

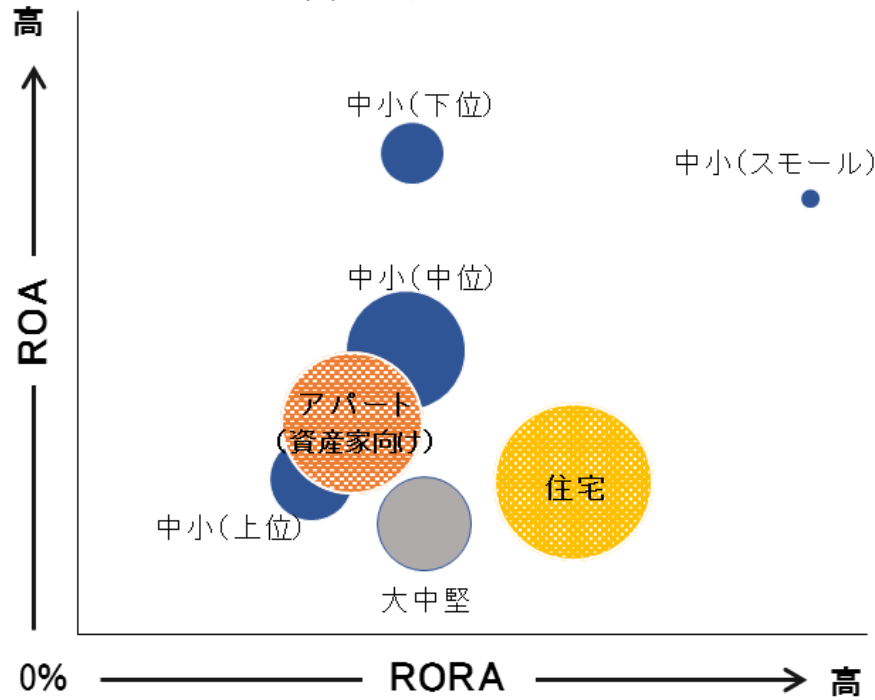
2018年3月から経営管理にRAFを導入



4. 課題

- 経営企画部門とリスク管理部門の関係
- 選好するリスク(リスク・リターン)の選び方
- 自己資本とROE
- 社外役員の間与

貸出先別リターンのイメージ



自己資本とリスクテイク(国際基準)

